

別記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2023年 6月19日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)  
大阪府茨木市宇野辺1-1-47

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)  
日世株式会社 代表取締役社長 吉田 文治

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項  
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、  
[事業者行動計画を策定(変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	日世株式会社 代表取締役社長 吉田 文治
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪府茨木市宇野辺1-1-47

1 事業者の概要

事業所の名称	日世株式会社 びわ湖工場					
事業所の所在地	滋賀県犬上郡多賀町大字四手字諏訪510-7					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	0	9	1	4	※ 産業分類・細分類名称を記載 乳製品製造業
事業の概要	ソフトクリーム、ホイップクリーム原料の製造					
従業員の数	147	人	作業時間	8	8:35~17:35	時間/日
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	3	台	熱源設備	7	台
	コンプレッサ	3	台	空気調和設備	56	台
				照明設備	1449	台
				その他	CGS1	台

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	R5	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	R9	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

私たち日世グループは、企業理念の行動規範「Ecological mind～人にやさしく、地球に優しく！社会、環境との調和をめざそう～」のもと、安全・安心・品質第一を基本とした商品やサービスの提供を通じて、お客様に笑顔をお届ける存在であり続けられるよう、地球環境の大切さを十分認識し、環境保全と資源の節約に配慮した企業活動に取り組んでまいります。

(1)法令順守

事業活動に関わるすべての環境関連法令、条例、協定を遵守します。

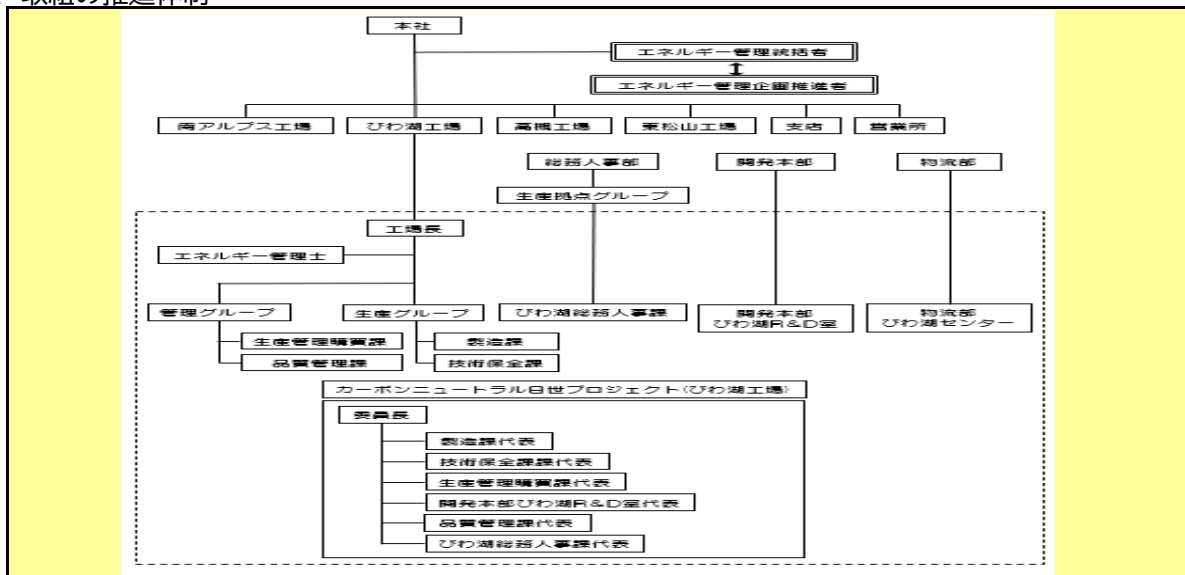
(2)環境への配慮

省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル活動の推進とともに、環境に配慮した技術を採用することで、環境汚染の予防と循環型社会の実現に努めます。

(3)環境意識の維持と向上

適切な教育や訓練を通して環境方針の内容を理解し、一人ひとりが環境活動の主体であるという自覚を持ち行動することで、環境意識の維持と向上を目指します。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

日世グループとしてより一層の温室効果ガスの削減を目標に2021年8月CNNプロジェクトを発足  
※CNN: Carbon Neutral Nissei

の略

発足後の主な活動

- ・CGSの廃温水を用いたナチュラルチラーを導入、ガス使用量の削減により31.1t-CO<sub>2</sub>削減
- ・工場内の照明器具のLED化により2022年度実績で1t-CO<sub>2</sub>削減
- ・生産工程の見直しにより水、電力の削減、2022年度実績1.1t-CO<sub>2</sub>
- ・冷専空調機の冬季待機電力削減により0.2t-CO<sub>2</sub>削減
- ・休日・夜間のタンク冷却に用いる送水ポンプを温度制御により間欠運転化
- ・2022年3月18太陽光設置工事終了、4月1日運用開始(全量自家消費)
- ・産業廃棄物の削減、有価化
- ・部門にて業務集約によりノー残業日を設定、主に空調機の電力削減を実施
- ・工場の電力・水・ガスの情報収集ソフトを導入しエネルギー見える化を構築

これらの取組により2022年度は50.1t-CO<sub>2</sub>削減 2013年度比で8%を削減した。

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	2023年4月運用開始の太陽光発電の安定稼働	R5~R9	
2	設備導入	インバーター搭載空気圧縮機への更新	R6	
3	設備導入	廃熱回収	R7	
4	運用改善	原料タンクの温水ヒーター、トレースヒーターの通電時間の適正化	R5~R9	
5	運用改善	ジェネリック空調の廃熱利用効率化	R5~R9	

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記の取組等により、令和4年度を基準年度として、以下の数値目標の達成を目指します。</p> $\text{原単位} = \frac{\text{温室効果ガス排出量(t)}}{\text{生産量(m)}} \text{ で毎年2\%削減}$ <p>原単位設定の考え方は以下の通り。                      ・温室効果ガスの排出量は生産量の増減に左右されるため、原単位指数(分母)を生産量に設定。                      ・上記取組による削減効果を評価する為、電力のCO<sub>2</sub>排出係数は計画基準年度(R4年度)の係数0.405に固定。</p>	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		(R5)年度	(R6)年度	(R7)年度	(R8)年度	(R9)年度
原油換算エネルギー使用量	kL 3,031					
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub> 5,424					
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub> 5,424					
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub> 0					
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub> 0					
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub> 0					
HFCs	t-CO <sub>2</sub> 0					
PFCs	t-CO <sub>2</sub> 0					
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub> 0					
NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub> 0					
エネルギー等原単位の推移	0.161					

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	2023年4月運用開始の太陽光発電の安定稼働	R5~R9	
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	2030年度までに太陽光発電をさらに拡大し、工場の20%を目標に再エネ電力で賄うべく設備導入を進める。
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	400 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(R5)年度	(R6)年度	(R7)年度	(R8)年度	(R9)年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0 (R5.4運用開始)					
上記のうち自家消費量	kWh	0					

7 その他のCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに資する取組

## (1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			( )年度	( )年度	( )年度	( )年度	( )年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 【調整後排出係数】	t-CO <sub>2</sub>						
【調整後排出係数】	kg- CO <sub>2</sub> /kWh						
特記事項							

## (2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(R5)年度	(R6)年度	(R7)年度	(R8)年度	(R9)年度
グリーン証書の購 入	t-CO <sub>2</sub>						
クレジットの購入	t-CO <sub>2</sub>						
特記事項							

## (3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1				
2				
3				

## (4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				(R5)年度	(R6)年度	(R7)年度	(R8)年度	(R9)年度
	保有車輛の数	台	2					
	上記のうち 次世代自動車の数	台	1					
特記事項								

(5) その他のCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	サーキュラー エコノミー	排水処理の過程で出る残渣を肥料化し、有価物として販売	R5~9	
2	マザーレイク ゴールズ(ML Gs)の取組	地域のイベントに参加し、地域の方への環境教育の実施	R5~9	
3	その他	CO <sub>2</sub> の見える化を実施し、従業員の意識改革	R7	
4				
5				